

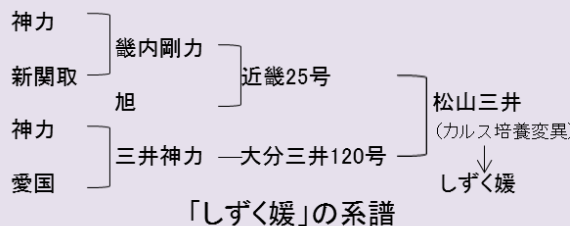
### 【全体概要】

愛媛県農業試験場(現:県農林水産研究所)が平成17年に育成した酒造好適米「しずく媛」は、実需者の愛媛県酒造組合からの評価が高く、各蔵元は品種特性を生かし、「しずく媛」100%使用の純米酒づくりに取り組み、統一銘柄「しずく媛」の名称で製造・販売している。しかし、実需者からの要求量が確保できず、産地や農家間で品質にバラツキがあることから、実需者が求める収量・品質を確保する安定生産技術の確立し、需要の拡大を図る。

### 新品種・新技術等の概要

#### 【しずく媛】

○松山三井のカルス培養変異より育成した品種で、準酒造好適米として実需者の評価が高い松山三井を改良し、大粒化と酒造適性を向上させた品種。

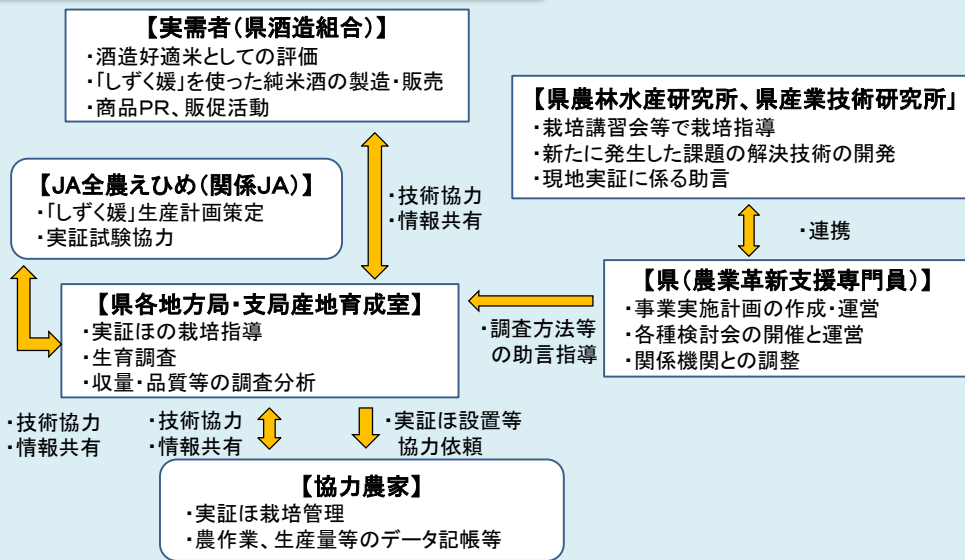


#### 【しずく媛の特徴】

- 大粒で玄米タンパク質含有率が低い。
- 出穂・成熟期は松山三井より2日程度早い。
- 稈長は長めで、穂長がやや短い。



### コンソーシアム候補の体制図



### 主な取組内容

- 高品質・安定生産技術の現地実証  
穂肥2回施用等極めの細かな肥培管理技術の実証(3か所)
- 実証ほ検討会の開催  
実証ほの実績検討により、技術課題やその解決方策を共有
- 栽培マニュアルの作成  
品種特性を生かす栽培マニュアルを作成し、基本技術の徹底を啓発
- 産地と実需との情報交換会の開催  
産地と実需とのマッチング事例等情報を共有し、両者の連携を強化

### 実績と今後の展開

#### 【実績】

- 栽培面積      H26年 31ha      →      H27年 54ha
- 単収      H26年 439kg/10ha → H27年 413kg/10a
- 品質(特等比率)      H26年 7.8%      →      H27年 30.1%

#### 【今後の展開】

- 「しずく媛」の品質は向上したが、急激な面積拡大に対し、需要が追い付かず、H28年産では生産調整(45ha)を実施。
- 各農家における品質のバラツキは緩和傾向にあるため、実需の求める品質の高位平準化と新たな需要拡大を目指す。